

おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 27 号 (2 月 2 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

東北新人 初戦突破！2回戦で敗れる

1 月 28 日 (木) ~ 31 日 (日) にかけて福島県にあります J - ビレッジにて東北新人大会が開催されました。東北新人への山東の出場は、齋藤直哉君がキャプテンだった年以来ですから 3 年ぶりとなります。そのときは初戦で福島工業に完敗を喫しましたので、今回こそ、まずは一勝したいと考えて福島へ向かいました。

28 日は前日練習と監督主将会議がありました。前日練習では、**選手たちは天然芝の感触を味わいながら伸び伸びとプレー**しているように見えました。今年度は 12 月に雪がドンと降ったものの、その後順調に溶け、東北大会前の数日はかなり乾いた土のピッチで練習できていたので、アウトドアの練習が久しぶりだったわけではありませんが、やはり芝は特別。練習を見ている顧問もテンションが上がる (選手以上に上がってましたね)。そして練習後、J - ビレッジから車で 10 分ほどの宿舎「**楢葉町サイクリングターミナル**」に移動しました。その宿舎は、山形の**日本地下水開発 (株)** が温泉を掘ったところでして、サッカー部の保護者のある方が紹介してくださいました。温泉は若干黒っぽく濁っており、いかにも効きそう。浸かると肌がぬるぬるしとても良い気分。明日はどうなるかな、と不安と期待に胸膨らませました。

29 日、初戦の秋田西戦。情報がほとんどなかったですし、新人戦で念入りに情報収集するのもどうかと思われましたので、試合をやりながら選手が相手の特徴を感じ取れば良い、などと悠長に考えて試合に臨みました。序盤からやや山東がペースを握る展開。ただイージーミスから流れを自分たちで悪くし、時折相手の鋭い速攻を許す。そうした決して悪くない流れの中、山東ゴール前でのクリアボールが甘くなったところを、すばらしい左足のキックをしていた秋田西 に豪快にミドルで突き刺され、先制を許す。そのまま前半終了。ハーフタイム、選手たちは「(後半の逆転について) やれるやれる」などと暢気なことを言い合っておりましてので、**一瞬の間を逃さず決めきる秋田西の力について十分認めさせた**上で後半に向かわせました。すると後半開始直後、うまくボールがつながり、右にプルアウェイ(ふくらんでボールから離れる動き)をした FW 藤盛にボールがわたると、そのままシュート。それがバーに当たりゴールならず。「そんなすぐ、うまくは行かないやな~」などと思って一瞬気を緩めていると、MF 大久保がゴールを背にしたまま浮き球をオーバーヘッド・キック。それがうまくサイドネットに吸い込まれ、後半開始 1 分で同点に。**確かに、大久保は前日練習にて芝の感触を楽しむためかオーバーヘッドを遊びで繰り返していました！！**開始直後に楽になり、良い気分で後半に入れた山東は、随所に伸び伸びとしたプレーが見られ、逆転に成功。**結局 2 - 1 で逆転勝利**。顧問今野も 4 回目の東北大会 (18 年度東北総体・東北新人、20 年度東北総体、21 年度東北新人) で初の一勝。宿舎では、勝って宿泊をする喜びにひたりながら、次戦の尚志高校戦に思いをめぐらしました。

二回戦は福島 1 位の尚志高校。プリンス 1 部在籍のレベルの高い相手と対戦できる喜びを感じて、試合に臨みました。**試合前の指示は、とにかく最初の 15 分粘れ、というもの。**力の差があるチームと対戦するときの鉄則は、先制点をやらないこと。というか、最初粘って守りのリズムを作ることで、力の差をスコアの差にさせないことでしょう。しかし！簡単にスループスを出され(中盤のプレスの甘さ)、FW に走られ(DF のマークの甘さ)、GK は簡単に抜かれ(GK の判断の甘さ)、開始 1 分で先制を許す。「何だよ、何点入れらるつもりだよ」と不甲斐なさに天を仰ぐ。しかし、顧問が気持ちの切り替えができない中、選手は声を掛け合って切り替えようとしている。するとその後は、たびたび決定機を握られながらしぶとく守り、また、薄い攻撃ながら逆襲からシュートチャンスをつかむなど、まずまずの試合運びで前半を 0 - 1 で折り返す。「よく 0 - 1 で守りきった」とほめて後半に向かわせると、後半は、攻められ続けましたが最後は体を張って守り、フリーで打たせるシーンを作らせず。**シューティング**(センターリングがシュートになるもの、または、センターリングと思わせるシュートのことで、山東サッカー部の造語)から失点をしましたが、結局 0 - 2 で試合を終える。実力差は 0 - 10 でしたが、それを 0 - 2 によく抑えることができた、しかも**前半早々の失点でも崩れることなく耐えた**点は、評価してもよいのではないかと思います。攻撃やボール支配ではかなり寂しいものがありました、**現在の力を出し切った戦いだった**と思います。

三日目 31 日はフレンドリーマッチ(交流戦)を行い、下に書きます齋藤博愛^{ひろあき}も登場。芝のピッチを楽しみました。そして準決勝・決勝のハイレベルな戦いを見て、山形への帰途に着きました(優勝は盛岡商業と富岡高校の両校優勝)。選手たちは、激しく、たくさん動きながらも正確にトラップ、キックができる上位チームと、自分たちとの差を感じて、「**もっとしっかり基礎練習に取り組まないといけない**」という原点に立ち返る反省を述べていました。それを聞いて、東北大会に出場できて本当に良い経験を積んだと思われました。

多くの保護者の方々が遠く福島県檜葉町まで応援に駆けつけてくださいました。保護者会からは激励金そして差し入れを頂戴しました。厚く御礼申し上げます。また、**3 年生保護者の皆様からも**激励の栄養補助食品を差し入れていただきました。本当にありがとうございました。

裏面に収支報告書(案)を載せておきます。ご確認ください。なお、東北新人用として 11 月から 3 月までの 5 ヶ月間で計 2 万円を積み立てる(月々 4 千円を積み立てる)という計画でしたが、裏面のように **1 月分までの¥12,000 で十分まかなうことができましたので、2 月、3 月は 4 千円を抜いた額の¥13,000 のみを「冬季遠征費、春季遠征費」として納入してください。**よろしく願いいたします。

新入部員 紹介

モンテディオ山形ユースより山形東高校サッカー部へ、山東 1 年生の齋藤博愛^{ひろあき}君が転籍いたしました。 昨年の松永君のように活躍が期待されます。皆さん、どうかお見知りおきを。